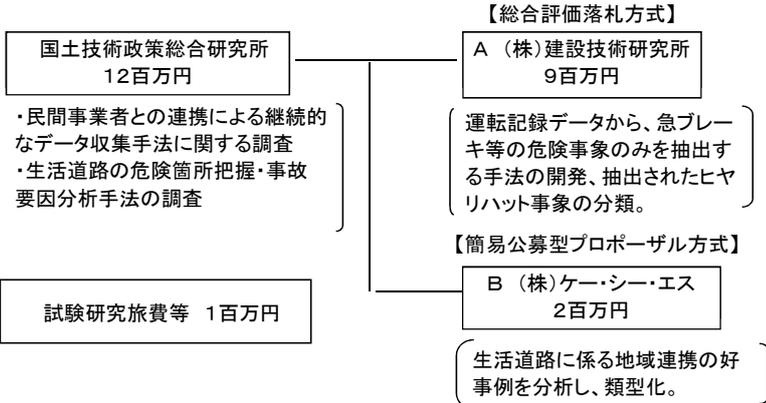


行政事業レビューシート (国土交通省)

予算事業名	科学的分析に基づく生活道路の交通安全対策に関する研究	事業開始年度	平成20年度	作成責任者		
担当部局庁	国土技術政策総合研究所	担当課室	道路空間高度化研究室	室長 金子 正洋		
会計区分	一般会計	上位政策	技術研究開発の推進			
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	-	関係する計 画、通知等	第8次交通安全基本計画(H18.3) 社会資本整備重点計画(H21.3閣議決定)			
事業の目的 (目指す姿を簡 潔に。3行程度 以内)	総延長が膨大で事故発生箇所が分散するため、安全対策立案の基礎となる交通事故データの収集が困難である生活道路において、タクシー・物流トラック等で搭載が進んでいるドライブレコーダの記録データ等を活用した、科学的分析に基づく生活道路の交通安全対策の手法を構築することを目的とする。					
事業概要 (5行程度以内。 別添可)	<ul style="list-style-type: none"> ・ドライブレコーダの記録映像を目視確認することなく、危険事象と無関係なデータ(段差による衝撃など)を除去し、ヒヤリハット情報を効率的に抽出するための手法を検討 ・モデル地域において収集したヒヤリハット情報や連携のノウハウを広く共有・活用できる事例集作成に向けて、生活道路におけるヒヤリハットの発生状況(事故類型、道路環境)、地域連携の好事例を分析し、類型化 					
実施状況	<p>本事業(技術開発)は、平成20年度から平成22年度の3ヶ年で実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●平成20年度は、以下の内容の研究を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ドライブレコーダの記録データを分析し、タクシー、トラック等の車種毎に、ヒヤリハット以外の要因で記録されるデータの含有状況、ヒヤリハットの発生頻度・分布密度等に関する基礎的なデータ特性を明らかにした。 ・基礎的なデータ特性、生活道路に係る地域連携事例等を踏まえ、生活道路の安全対策におけるデータ活用のあり方、課題等を整理した。 ●平成21年度は、以下の内容の研究を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ・約300件にもほのぼのドライブレコーダの記録データのうち、前方画像、速度・加速度波形等の一つ一つ詳細に確認・分析し、ヒヤリハットとそれ以外の要因で記録されるデータの波形特性の違いを明らかにした。また、波形特性の違いに着目し、生の記録データから、画像確認を行うことなく、ヒヤリハットの割合を8割以上に高めることができる抽出ロジックを作成した。 ・約200件のヒヤリハット事例について、個々の画像データを確認し、ヒヤリハット対象(歩行者、自転車、自動車等)、ヒヤリハット類型(出会い頭、正面衝突等)、道路環境(単路・交差点、信号・歩道の有無等)等に注目して、類型化した。 ・生活道路に係る地域連携の好事例を分析し、類型化した。 					
予算の状況 (単位:百万円)		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度要求
	予算額(補正後)	-	19	12	10	-
	執行額	-	19	12		
	執行率	-	98.0%	97.1%		
	総事業費(執行ベース)	-	-	-		
自己点検	支出先・ 用途の把 握水準・ 状況	<ul style="list-style-type: none"> ・業務請負者選定の妥当性については第三者機関である技術提案評価審査会により審議していただいている。 ・業務の主たる部分に係る再委託は禁止されているところである。主たる部分以外の再委託については、軽微なもの(コピー、印刷、製本、資料の収集・単純な集計、翻訳、データ入力、計算処理、トレース、模型作製等)を除き、再委託承諾申請書を求めており、支出先・用途を確認している。(本事業においては、再委託承諾申請書を要する再委託はない) ・支出の効果については、業務打ち合わせ及び納品後の検査を通じて、成果水準を的確に把握している(本事業については、当初の目的を達成する成果が得られている)。 ・進捗状況に合わせて随時打合せを行うことにより、進捗管理を適切に行い、事業内容の精度・深度を十分に深めている。 				
	見直しの 余地	<ul style="list-style-type: none"> ・支出先については、総合評価方式、簡易公募型プロポーザル方式により公募を実施し、競争性の確保に努めており、今後も競争性の確保に努めるものとする。 ・業務発注を計画するにあたっては、あらかじめ検討項目、調査対象範囲等について十分検討を行い、効率的な執行に努めているところである。今後も、簡易な調査等について別途業務として一般競争入札の採用を検討するなど、より一層の効率化に努めるものとする。 				
チーム 監視の 効率化	<p>【事業廃止】 平成22年度中に一定の成果が見込まれることから廃止。</p>					
補 記	<p>【予算科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・133 技術研究開発推進費 ・13 科学技術振興費 (21年度予算額) (21年度決算見込額) ・13054-2122-08 試験研究旅費 0.5 百万円 0.3 百万円 ・13054-2122-08 外国旅費 0.6 百万円 0.6 百万円 ・13054-2123-09 試験研究費 11 百万円 11 百万円 <p>※四捨五入しているため、合計値があわない場合がある。</p>					

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位:百万円)



A. (株)建設技術研究所			E.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
その他	諸経費	3.5			
人件費	業務担当者人件費(収集データの整理、データ処理、ヒヤリハット実態・対策事例分類整理)	2.9			
その他	技術経費	1.9			
その他	直接経費、消費税	0.4			
計		8.7	計		0
B. (株)ケーシーエス			F.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
その他	諸経費	0.9			
人件費	業務担当者人件費(生活道路に係る地域連携の好事例分析・類型化)	0.8			
その他	技術経費	0.5			
その他	直接経費、消費税	0.1			
計		2.3	計		0
C.			G.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。使途と費目の双方で実情が分かるように記載)